

荊木家文書目録解題

荊木（いばらき）家は、高田城下の下小町（しもごまち・現上越市本町6丁目）の商家で、文化年間には「いばらき屋巳右衛門」を名乗り旅人宿を営んでいたことが、「浪速講定宿帳」（能生町水谷家所蔵）から知られる。

上・中・下の小町三町は福島城下以来、領主によって塩専売等の商業的特権を認められており、松平忠輝の高田築城に伴って高田城下町に移住させられ、引き続きその特権を保護された。

そのため、小町三町は卸売問屋と、信州等から買い付けに入り込む仲買人に旅宿を提供する旅館とが立ち並ぶ町としての特色を持っていた。

この史料の原本は、寛保2年(1742)の「下小町屋敷割図」で、高田藩領主が松平越中守家から榊原氏に交代したことに伴って作製し、藩へ提出したものの控えと考えられる。これを、明治27年(1894)に忠実に模写したものであることが奥書から知られる。荊木家は、図中の北西端に「荊木新右衛門」と記されている。

また、明治39年(1906)の「越後高田町商業地図（上越市史資料編6近代付図）」には、同じ位置に「荊木佐兵衛」の名が見える。荊木家は、その後20世紀初頭、旧城下町の商業地を離れ郊外に移転した。